

次期総合計画の策定に係る各種審議会や委員会でのいただいた御意見の概要

1 会の名称

第 56 回岩手県商工観光審議会

2 県側出席者

商工労働観光部

政策地域部政策推進室

3 開催日時

平成 30 年 7 月 18 日（水） 14：00 ～16：00

4 主な御意見の概要

○ 人口減少・人材確保対策について

- ・ 市町村段階の地方創生の取組に関わっているが、どこでも言われるのは、若い女性がどんどん県外へ出て行ってしまうということ。働きやすさを産業政策の中でどう表現するのが問われている。
- ・ 岩手県は、2040 年には人口 100 万人を切るという大きな人口問題を抱えている中で、自然減に対する対応と社会減に対する対応をどうするのか。人口対策を前面に出してこうすべき、各市町村、行政も一緒になって取り組むといった政策が必要ではないか。
- ・ 労働力不足について、生産年齢人口が現在、58%位の状況であるが、これがもっと下がっていく。課題解決を前面に出すことで、県民や行政、各産業界からの理解を得られやすくなるのではないか。
- ・ 県内の学生の約 7 割が県内就職希望とあるが、実際、地元に着しないのはなぜか。企業認知の問題だけであれば、それについて県を中心に取り組んでいただきたい。また、可処分所得について、都会と差がないのであれば、そういうキャンペーンも県が主導して実施するなど、皆の意識をまず変えていくということがとても大切なのではないか。
- ・ 農林水産業の従事者が少なくなっている。最近は大規模農業や株式会社化が言われ、IT 関連を含めて、工業分野では起業家の育成がもてはやされているが、第 1 次産業の農林水産業の方が起業という意味では一番早いのではないか。そういったイメージを変えるようなキャンペーンは、とても大切だろうと思う。世の中、工業系がもてはやされているくらいが大きいので、文系も含めて、どうすれば岩手県に残るかということを考えながらのキャンペーンをお願いしたい。
- ・ 人材確保について、現状で起きていることを隠すのではなく、中小企業、第 1 次産業、サービス業、沿岸地域も含め、成功例を県でピックアップして、出していただくとうありがたい。

- ・ 雇用の問題について、南部杜氏の世界も高齢化が進んでおり、それも農業従事者の減少という問題とつながっていると思う。また、今南部杜氏の世界は県外の会員がすごく多く、県内は本当に若い人がいない。なぜかという、やはり賃金や労働の問題。4月から、東京からのIターンの従業員を1人雇用したが、一番困ったのが住居や車。Iターン、Uターンは必要不可欠であるので、来た後の助成や対応をもう少しいろいろとやっていただけるとありがたい。

○ 幸福感について

- ・ 客観的指標について、ごみの排出量や学力テスト、交通事故発生件数というのが入っているが、これを分析したときに幸福度、あるいは信頼関係にどう繋がるのかよく分からない。

○ 産業振興について

- ・ 青森の外国人観光客数が伸びている理由は国際線を持っているからであり、第2弾、第3弾にどう取り組むかが大事と思う。そういう意味で、産業振興の面での空と港の開発と道路整備、そして、県として総合的に、県南、県央、県北、沿岸がバランスのとれた産業振興がとれるようにしてほしい。
- ・ ライフサイエンス分野、医療であるとか、福祉であるとか、そういう分野について産業としての施策がない気がするが、どのように考えているのか。

○ 復興について

- ・ 被災地では、産業、働く場所がなく、一旦出ていった人が戻ってこない、さらには若い人が魅力あるまちづくりに一緒になって取り組めないという大変苦しい状況にあると聞いている。岩手県として、次の10カ年計画で、新たな復興の取組をするということを前面に出す必要があるのではないか。いわゆる復興計画期間が終わってそれで終わりというのではなく、持続性の高い復興、産業の振興、被災地支援というものを明確に出すべきではないか。